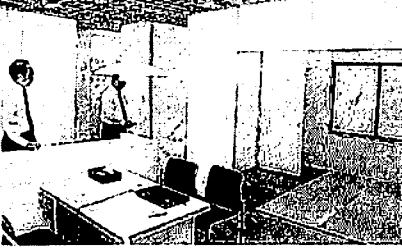
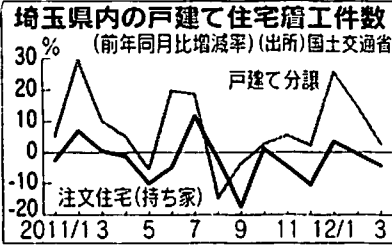


注文住宅の間取り体感

藤島建設

住宅メーカーの藤島建設(埼玉県川口市、佐藤善之社長)は注文住宅の設計前の打ち合わせ時に、専用スタジオで実際に間取りを再現して顧客に確かめてもらうサービスを始める。設計図などでは想像しづらい部屋の広さやコンセン



打ち合わせ時に 広さや死角確認

さいたま市緑区の埼玉スタジオ2002近くにある同社の製材工場の一角に設けたスタジオで間取りを再現する。「Fistudio」と名付け、月内にもサービスを始める。

スタジオでは一般的な住宅の1フロア分(約66平方メートル)を再現。ポリスチレンフォーム製の軽質な板を使い、天井からつり下げて設計図通りの寸法を再現した注文住宅の間取り(さいたま市の工場)

注文住宅では通常、顧客の要望を取り入れながら打ち合わせを重ねる。設計図だけでは完成イメージがつかみにくいため、CG(コンピュータグラフィックス)で想像図を描く手法が主流だ。ただ部屋や廊下の広さ、リビングからの見通しや死角はCGでは想像しづらい。電気のコンセントやスイッチ、扉や照明器具などの位置を検討するうえでも限界がある。仮設空間に顧客が入れるようにすればイメージがつかみやすくなる。佐藤社長は「壁の色合いなどは再現できないが、設計時の想像と完成時の印象を近づけられる」と話す。断熱材の素材を再利用し投資額を抑えた。注文住宅での標準サービスとする予定だ。人口増が続く埼玉県内の戸建て住宅市場は分譲住宅を中心に増加傾向にあるが、若い世代が手を出しにくい注文住宅は頭打ちの状況だ。藤島建設は注文と分譲住宅の双方を手掛けており、「注文住宅の販売増につなげた」(佐藤社長)考え。同社は県南部が地盤。国産材を使った環境性能の高い住宅が強み。年間約200戸を手掛け2012年4月期の売上高は約40億円だったもよう。